

自分らしさを認め合う 教育現場、地域をつくる、 手助けをし続けたい。

「すべての子どもたちが楽しく学校に行ける、日本にしたい」その熱意のもと、小学校教員を経て大学、大学院で学び直し、全国で初めて外国人児童の就学実態を明らかにするなど信念を持って行動し続けてきた。パワフルな小島先生。愛知淑徳大学では「コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)」の開設から携わり、2010年愛知環境賞優秀賞受賞にもつながった。学生たちのさまざまな活動を応援してきました。現在は、貴重な経験や実績の数々を教育学科で活かし、小学校教員をめざす学生たちの志をバックアップ。学生一人ひとりと、地域、世界のさまざまな人との出会いをつなぎ、学生自身の気づきや実感、その先にある成長を大切にしています。今回、これまでの研究や活動を振り返りながら、熱い思いを語ってくださいました。



小島先生の主要著作／論文

- [主要著書リスト(近年分のみ)]
- ・日本の中の外国人学校(共著)2006年.外国人・民族的マイノリティ人権白書2010(共著)2010年.越境するケア労働-日本・アジア・アフリカ(共著)2010年.国際移動と教育(共著)2011年.国際看護・国際保健(共著)2012年.移住者が暮らしやすい社会に変えていく30の方法(共著)2012年.
 - [論文]
 - ・O Ambiente Educacional das Crianças Brasileiras Residentes no Japão e suas Implicações(単著)2010年.学齢を超過した義務教育未修了の外国人住民の学習権保障(単著)2011年.無国籍状態の子どもの就学問題(単著)2012年.
 - [研究報告書]
 - ・無国籍状態の子どもの人権のゆくえ-成育・教育保障を考える(UHCHR「無国籍の情景-国際法の視座、日本の課題」出版記念イベントシンポジウム報告書)(共著)2011年.ブラジル学校における学校健診の試み-日本の学校健診モデルの適応の可能性(単著)2011年.2011年度外国人生徒と高校にかかわる実態調査報告書-全国の都道府県・政令都市の教育委員会+岐阜県の公立高校から(単著)2012年.
 - [受賞]
 - ・第58回日本学校保健学会優秀発表賞「ブラジル学校における日本の学校健診手法適用の可能性」2011年.



文学部 教育学科 准教授 小島 祥美

【学歴】
2000年3月 大阪外国語大学外国語学部中南米地域文化学科スペイン語専攻卒業
2006年3月 大阪大学大学院 博士号(人間科学)取得

【職歴】
2005年4月 岐阜県可児市教育委員会
2006年9月 愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター(07年3月まで研究助手、4月から専任講師)
2011年4月 愛知淑徳大学文学部教育学科准教授

【主な社会活動(近年分のみ)】
文部科学省大臣官房国際課外国人学校の各種学校設置・準学校法人設立の認可等に関する調査委員、国際ボランティア学会理事、小牧市多文化共生協議会委員、犬山市民活動促進委員、桑名市および松阪市外国人児童生徒教育運営協議会委員、NPO法人可児市国際交流協会理事、愛知県新あいち多文化共生推進プラン検討会議委員など

駆け出しの小学校教員だった頃、外国人児童と出会い、「難民」「出稼ぎ労働」などの現実を目の当たりにしました。「外国人児童が学校に楽しく通えるように、力になりたい」と強く感じ、大学で勉強し直すことを決意。再度の大学入学後は、阪神淡路大震災の被災外国人支援やNPOの設立、被災地に新たな雇用をつくるコミュニティビジネスへの参画、南米一人旅など、実践と経験を重ねました。南米・ボリビアでのJICAインタナショナルシップに参加した時は、日本の国際援助の現場に立ち、日本の援助により途上国で実践されている一人ひとりのルーツやアイデンティティを大切にしたい教育が、なぜ日本でできないのかとどこかしさを感しました。なぜなら、日本は外国人を就学義務の対象外と扱い、学校に通っていない不就学の外国人児童が実在したからです。

外国人児童の就学実態を国や自治体も把握せず、社会から「見えない」存在となっていた不就学の子どもたち。不就学者をなくしたいという一心で、外国人が多く暮らす岐阜県可児市に研究の協力をお願いして、市内に暮らす全家庭訪問による就学実態調査に挑みました。この調査結果を受けて可児市では、「不就学ゼロ」をめざした施策を開始し、この施策の初代コーディネーターに私は抜擢されました。

そして、市教育委員会で研究結果を根拠にした具体的な実践に取り組みました。これらのかかわる施策が開始されるまでに至ったのです。「研究のための調査でない」と理解を得ながら調査を行ったので、その結果が自治体だけでなく、具体的な国の施策にもつながり、よかったです。この経験を通じて、生きた研究は社会の課題解決に資することを実感しました。

こうした経験を次世代につなげていきたいと考えていたとき、愛知淑徳大学と出会いました。コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)で学生たちの活動を支援し、現在は文学部教育学科の教員として小学校教員養成課程も担当しています。ゼミではNPOや行政と協働しながら、学生が自ら地域社会の課題を発見し、グローバルな視野でその解決法を考えることのできる人材育成に取り組んでいます。今年の夏は、ゼミ生と共に中米・メキシコへ行き、現地の大学生と意見交換や国際交流をしました。子どもたちに実社会を伝え、生きた学びを実践できる小学校教員になってほしい。そう願いながら、学生たちと共に地域へ、世界へ飛び出し、学生一人ひとりの成長を応援しています。